



2019年3月14日に愛

知県が主催する「あいち観光まちづくりフォーラム」が開催され、学生による観光振興のための提案を競う「あいち学生観光まちづくりアワード」で5チームの大学生が愛知県内の各地の魅力を生かした発表を行った。梶山女学園大学現代マネジメント学部は「愛知をアジアのカリブ海に！セントレアにクルーズ客船を誘致して日本初のフライ&クルーズ空港へ」をテーマに、中部国際空港と常滑港を活用したクルーズ客船の誘致により外国人旅行者を増や

### 愛知をアジアのカリブ海に

## 各港が連携し

## クルーズ船誘致を



梶山女学園大学 現代マネジメント学部准教授 水野 英雄

し、知多半島の魅力ある観光地を周遊してもらうことで愛知県全体への経済波及効果をもたらす提案を行っ

た。外国船社のクルーズ客船への人気が高まり、各地でクルーズ客船の寄港誘致が行われている。愛知県でも名古屋港や蒲郡港、さらには常滑港への寄港誘致が取り組まれている。クルーズ客船の寄港誘致のためには、①地元の関係者の連携、②寄港地間の連携が必要である。

①地元の関係者の連携に  
関しては、クルーズ客船の寄港受け入れのためには港湾管理者だけでなく、移動のためのバスやタクシー、訪問先となる観光地、飲食店、土産物店、市民による歓迎行事などさまざまな関係者の理解と協力が必要となる。  
また、各者の協力によつ

て地元への経済波及効果を大きくすることができるといえる。逆にいえば、地元の関係者の協力がなければクルーズ客を他の地域に奪われることになり、経済波及効果が期待できないだけでなく、交通渋滞のほか観光地や商業施設などの混雑といった観光公害を招くことにもなる。

②寄港地間の連携について  
は、(1) 近隣の寄港地との連携、(2) ルートとなる寄港地の連携がある。

(1) 近隣の寄港地の連携については、「愛知をアジアのカリブ海に！」で学生が提案したように単独の港ではなく、地域全体で寄港の増加を図るために各港の協力で誘致を行うことである。寄港が特定の港に集中することで寄港拒否も増えているが、周辺の港で代替的な受け入れが可能であれば、地域への定期的な寄港が可能となる。

同様のことは既に沖縄県で「東洋のカリブ構想」として実施されており、中国からのクルーズ客船の積極的な受け入れによって沖縄を東アジアでナンバーワンのクルーズエリアに発展させることを目標に取り組みを進めている。

(2) ルートとなる寄港地の連携については、同一航路を複数巡回し各港で乗下船を繰り返すインターポーターリングが行われるようになったことで、魅力ある航路を提案することが定期的な寄港の増加につながる。九州・沖縄から関西、中部、関東にかけて、航路上の各寄港地が連携して誘致活動を行うことで相乗効果が働く。

みずの・ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。